

謝 辞

震災後3年目にもなりますと、人事異動により、震災当時に当事務所に在籍していた職員は2人だけになりました。3年目の活動は、彼らから当時の被害状況や対応の話聴き、復興支援活動の原点を共有することからスタートしました。

体制については、廃棄物の不法投棄防止対策強化として産廃Gメンを増員し、また、飲食店の復興が進むことを見込み食品衛生関係の体制を強化しました。震災遺児・親へのケアについては、相談員を増員して対応しました。これにより、大規模な不法投棄はなく、飲食店関係の許可関係も滞りなく実施できました。震災遺児・親へのケアは、慎重かつ長期的に関わらなければならないと考えています。

所内プロジェクトチームとして、「被災者生活支援チーム」において引き続き所内の情報共有を徹底したほか、新たに、「地域医療と福祉の連携推進チーム」を設置し、医療・介護・福祉分野の連携に取り組みました。また、「復興支援情報発信チーム」は、復興支援ニュースを毎月発行しました。各チームにおいては、市町の現状と課題について情報を共有し、今必要とする事業を考えながら活動を行いました。一堂に会する時間を十分に取れず、課題の掘り下げなど不十分なところもあると思いますが、それぞれのチームは、なんとか業務を遂行することができました。

3年目の事業を進めるに当たりましては、研修会に快く協力いただいた講師の方々、各種連携会議に出席し貴重な資料や有意義なご意見をいただいた市町・団体の方々、また、復興支援ニュースの取材に応じていただいた方々など、多くの皆様から、ご協力をいただきました。皆様のおかげで、3年目の活動を実施することができました。感謝申し上げます。特に、新潟県からは、保健師を派遣していただき、健康調査の分析など健康支援業務に携わっていただきました。布施さん、北島さん、清野さん、山田さん、笠原さん、星野さん、八子さん、富山さん、関根さん、ありがとうございました。

4年目に向けて、仮設住宅から復興住宅や自立再建した家への移転が進んでおり、新たなコミュニティを形成していく時期になってきます。それに伴い、市町においては、将来を見据えた医療介護福祉システムの構築を進めています。当所としても、地域の方々や市町、関係団体の声に耳を傾け、寄り添いながら、石巻地域の復興に貢献していきたいと考えています。

今後とも、当所の活動にご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月31日

宮城県東部保健福祉事務所 所長 渡辺 達美